

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開実用新案公報 (U)

(11) 実用新案出願公開番号

実開平6-5614

(43) 公開日 平成6年(1994)1月25日

(51) Int.Cl.⁵

識別記号

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

A 6 1 F 13/15

5/44

H 7108-4C

2119-3B

A 4 1 B 13/ 02

G

審査請求 未請求 請求項の数3(全 2 頁)

(21) 出願番号 実願平4-45624

(22) 出願日 平成4年(1992)6月30日

(71) 出願人 000115108

ユニ・チャーム株式会社

愛媛県川之江市金生町下分182番地

(72) 考案者 城戸 勉

愛媛県川之江市妻鳥町883-1

(72) 考案者 高井 尚志

愛媛県川之江市川之江町2267-1

(72) 考案者 中野 省二

香川県観音寺市吉岡町160

(74) 代理人 弁理士 白浜 吉治

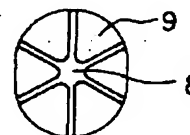
(54) 【考案の名称】 使い捨て衛生吸収物品

(57) 【要約】

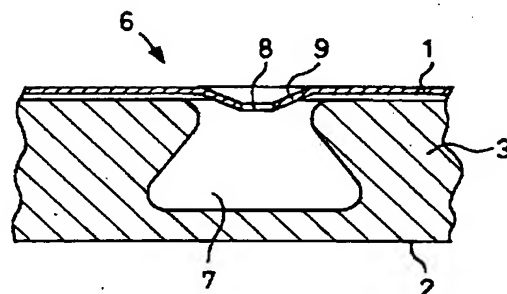
【目的】 大便を所定部位に確実に保持してその流動拡散を防ぐ。

【構成】 物品本体の所定部位に大便保持部6を設け、保持部6には開孔部8の中心方向へ延在する表面シート1部分で被覆した弁部9を形成してある使い捨て衛生吸収物品。

(A)



(B)



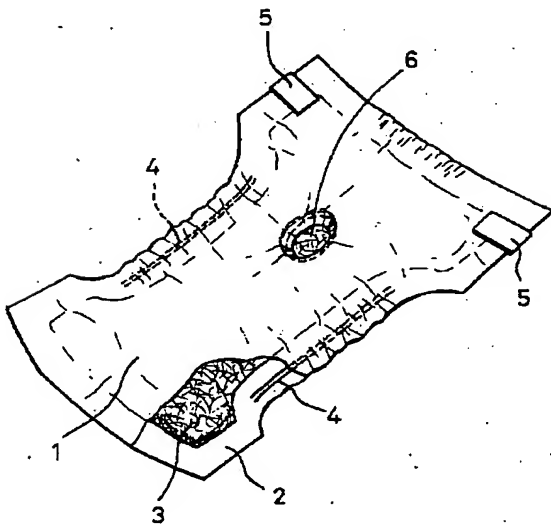
【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】透液性表面シートと不透液性裏面シートとの間に介在させた吸液性パネルとから物品本体を形成し、着用者の臀部が当接する領域の該本体に大便保持部を設けてある使い捨て衛生吸収物品において、前記保持部は、前記表面シートが接する前記パネルの上面から前記パネルの底面方向へ延在させた凹部と、該凹部の開口面に位置する前記表面シートに該凹部の開口よりも小さく形成した開孔部と、該凹部の開口縁から該凹部の開口中心方向へ前記表面シート部分を延在させて形成した弁部とから構成してあることを特徴とする前記物品。

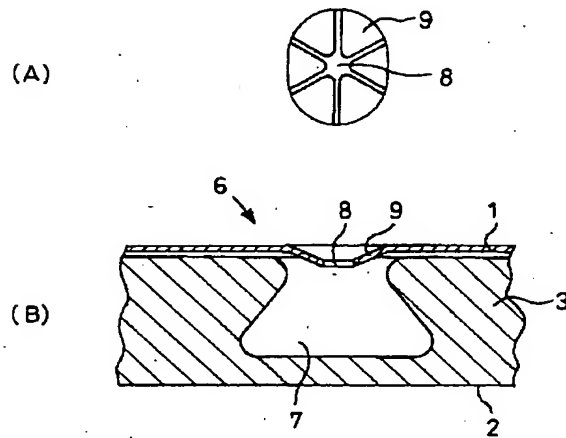
【請求項2】前記弁部は前記凹部の開口縁の周り方向へ複数に分割してある請求項1に記載の物品。

【請求項3】前記凹部はその開口面からその底面へテーパ状に拡大させてある請求項1に記載の物品。

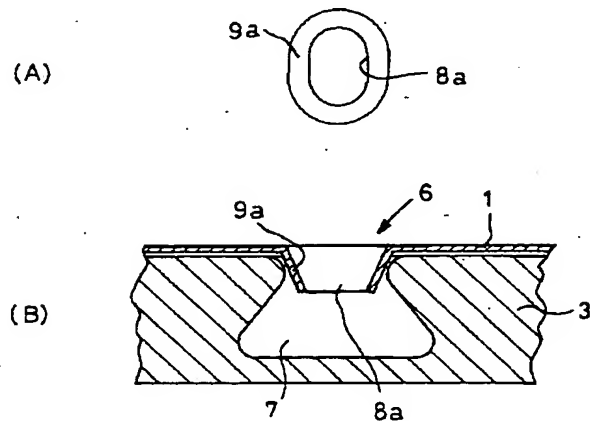
【図1】



【図2】



【図3】



【考案の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】

この考案は、おむつ、幼児用トレーニングパンツ、失禁パッドなどの使い捨て衛生吸収物品に関する。

【0002】

【従来技術】

従来、この種の物品において、着用者の臀部が位置する領域に大便保持部を設けたものが幾つか知られている。前記公知の大便保持部は、物品の吸液性パネルに凹部を設け、該凹部の開口面を物品の透液性表面シートで平面的に被覆するか、又は該凹部の内面に沿って該表面シートを凹ませてある。

【0003】

【考案が解決しようとする課題】

しかし、一般に前記表面シートとしては、大便液状分は透過するが、大便固形分が透過しない不織布を用いるため、前記凹部の開口面を表面シートで平面的に被覆したものは、前記凹部に大便固形分が流入せず、前記凹部を設けた効果がえられない。また、前記凹部の内面に沿って前記表面シートを凹ませたものは、前記凹部に大便固形分が流入するが、着用者の動きや体圧によって排泄固形分が前記表面シートの上面へ容易に逆流して拡散し着用者の肌を汚す。この汚れは物品の取り換えの手間を増すばかりでなく、皮膚病の原因ともなる。

【0004】

この考案の課題は、前述のような欠点のない大便保持部を極めて簡単な手段によって解決することにある。

【0005】

【課題を解決するための手段】

透液性表面シートと不透液性裏面シートとの間に介在させた吸液性パネルとから物品本体を形成し、着用者の臀部が当接する領域の該本体に大便保持部を設けてある使い捨て着用吸収物品を前提とし、次の点を特徴とする。

【0006】

即ち、前記保持部は、前記表面シートが接する前記パネルの上面から前記パネルの底面方向へ延在させた凹部と、該凹部の開口面に位置する前記表面シートに該凹部の開口よりも小さく形成した開孔部と、該凹部の開口縁から該凹部の開口中心方向へ前記表面シート部分を延在させて形成した弁部とから構成してある点。

【0007】

好ましい実施例では、前記弁部は前記凹部の開口縁の周り方向へ複数に分割してある点、及び前記凹部はその開口面から底面へテーパ状に拡大させてある点を含む。

【0008】

【作用】

排泄された大便は前記保持部の前記弁部を押し退けて前記凹部へ流入する。このとき、前記弁部が前記凹部の底面側へ傾斜し大便を凹部へ導入させる。また、前記弁部は、これを大便が通過した後、大便の性状にもよるが、大便が乳幼児などの軟かいものであれば、復元性向を示し、前記凹部に滞留した大便が前記表面シートの上面へ逆流するのを極力抑制する。

【0009】

【実施例】

図面を参照して、この考案に係る物品の実施例を使い捨ておむつを例にとって説明すると、以下のとおりである。

【0010】

図1において、おむつは、透液性表面シート1と、不透液性裏面シート2と、表裏面シート1，2の間に介在させた吸液性パネル3と、両側の表裏面シート1，2の間に介在させた脚回り弾性部材4と、腰回り締結片5とからなる。

【0011】

おむつを着用したとき、着用者の臀部が当接する領域、更に具体的には、肛門が対向する領域に大便保持部6を設けてある。

【0012】

図2（A），（B）において、大便保持部6は、パネル3に形成した凹部7と

、凹部 7 の開口面に位置する表面シート 1 に形成した開孔部 8 と、弁部 9 とから構成してある。

【0013】

凹部 7 は、その開口面からその底面へテーパ状に拡大させてある。ただし、場合によっては、開口が底面と同じ大きさでも底面よりも大きくてもよい。凹部 7 の空間体積は、 100 g/cm^2 以下の加圧下において、 $100\sim10000\text{ mm}^3$ であることが好ましい。こうした凹部 7 は、パネル 3 の一部をその厚さ方向へ圧搾するか、除去することなどによって形成することができる。

【0014】

開孔部 8 は、凹部 7 の開口よりも小さく形成してある。弁部 9 は、凹部 7 の開口縁の周り方向へ複数に分割してある。こうした開孔部 8 及び弁部 9 は、表面シート 1 をメルトブロー法による不織布から作る場合、そのとき同時にモールド賦形してうることができるが、該不織布又はその他の不織布を製造後に加工してうることでもある。

【0015】

図 3 (A) , (B) において、大便保持部 6 の別の実施例を示してある。この場合の開孔部 8 a は、先の開孔部 8 よりも大きく楕円形に形成し、かつ、弁部 9 a は、先の弁部 9 とは異なり、凹部 7 の開口縁の周り方向へ連続的に形成してある。

【0016】

表面シート 1 には不織布、裏面シート 2 にはプラスチックシート、パネルにはフラッフパルプと熱可塑性繊維と高吸収性ポリマーとの混合物を加熱下に圧縮成形したものを用いることができる。

【0017】

なお、弁部 9 , 9 a は、図上、傾斜させて示してあるが、大便がそれを通過する前の状態では、作為的にそのように傾斜させておく必要はない、換言すると、自重でそのように傾斜する場合は別として、表面シート 1 の他の部分と実質的に同平面にあるようにしてあってもよい。

【0018】

【考案の効果】

以上の構成を有するこの考案に係る物品によれば、大便保持部を構成する弁部が大便に押し退けられて大便保持部を構成する凹部の底面側へ傾斜するから、前記弁部が漏斗状機能を果し、大便を円滑かつ迅速に前記凹部へ導入させることができる。また、比較的軟かい大便が前記弁部を経て前記凹部に滞留した後は、前記弁部が復元性向を示すから、その滞留した大便が表面シートの上面へ逆流して拡散するようなことが少ない。

【0019】

前記弁部が複数に分割してある場合には、前記傾斜がそれだけ容易であり、また、前記凹部がその開口面からその底面へテーパ状に拡大させてある場合には、前記逆流の防止がより効果的になる。